

令和元年度（2019年度）第1回グランドデザイン改定部会 議事録

I 日時等

1. 日 時：令和元年（2019年）11月14日（木）午前10時～午前11時40分
2. 場 所：熊本市役所 議会棟2階 議運・理事会室

II 主な内容

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 議事

公共交通グランドデザイン改定の方向性について

【資料1 公共交通に関する現状と課題、これまでの取組等】

（事務局）

資料1を用いて説明

（委員）

- ・MaaSやAIなどの新技術の活用について現時点で具体的な事例などはあるか？

（事務局）

- ・MaaS、AIについては全国的に研究及び社会実験が進んでいる状況。
- ・熊本市内での社会実験等はまだないが、バス会社等と協議して早々に検討すべき課題として捉えている。国で実施しているMaaSの社会実験の結果等も情報収集しながら検討を進めたい。

（委員）

- ・タクシーも公共交通の一つとして考えていく必要があると考える。
- ・資料1 P5の公共交通利用者数の推移には、路線バスと鉄軌道が記載されているが、今後はタクシーの利用状況も併せて提示できないか。
- ・タクシーは平成30年度の実績で1日に30,630人（熊本都市圏）の利用がある。

（事務局）

- ・タクシーも公共交通として、今まで以上に活用していくような取組が必要と考えている。
- ・タクシーの利用者数は従前からのデータの集積ができていないこともあり、別紙で紹介するような形で対応していきたい。

(委員)

- ・公共交通の利便性を高めるうえでも、渋滞解消が必要と考える。

(委員)

- ・公共交通を主体とすべき外環状道路の内側に自家用車が流入している現状に対応する取組が必要と考える。

(事務局)

- ・道路の状況等を含めた今後の方向性については資料2で提示する。

(委員)

- ・今後、どのように具体的な取組をしていくかが重要。バス、電車、タクシー、自家用車それぞれの役割分担及び交通機関の結節性の向上が重要と考えている。
- ・健軍方面の市電延伸だけでなく、市内全域の鉄軌道を総合的に検討する必要があると考える。
- ・また、地域特性に応じた公共交通ネットワークを構築していくことが重要と考える。

(事務局)

- ・交通機関の役割分担については、鉄軌道を基幹公共交通軸とすることが基本的な方針。鉄軌道がない基幹公共交通軸はバスがその役割を担うものとして、定時性・速達性を向上させるためのバスベイ改修や交差点改良等の取組を進めてきた。
- ・一方で、市電延伸については、市内全域の基幹公共交通軸のうち鉄軌道がない方面を調査したうえで、健軍地区を優先的に検討しているところ。
- ・また、地域特性に応じて公共交通ネットワークを構築していくことは重要と考えている。
- ・グランドデザインは、市民及び関係機関と公共交通の将来像を共有するためのベースマップのような役割として考えており、具体的施策を記載することは限界があると考えている。従前のグランドデザインのワンペーパーとは別に、具体的施策が一定程度見えるような補完資料を作っていきたいと考えている。

(委員)

- ・公共交通空白・不便地域が概ね解消されたとのことだが、バスはきているが不便な地域は存在する。今後は、そのような地域における対応も考えていく必要がある。

【資料2 グランドデザインの改定と補完資料の作成について】

(事務局)

資料2を用いて説明

(委員)

- ・グランドデザインの方向性として環境負荷の軽減についても位置付ける必要があると考える。
- ・また、市民だけでなく観光客もシームレスに、誰もが気軽に移動しやすく暮らしやすい都市を目指して将来像を描く必要があると考える。

(委員)

- ・免許返納したいけどできないという声は多く聞く。市民の声を多く聞いて公共交通の問題解決に取り組む必要があると考える。

(部会長)

- ・具体的にはどのように市民の声を聞く方法がよいか

(委員)

- ・自治会等から地域の声を聞いて、問題解決を図ることが重要。

(委員)

- ・グランドデザインで描く将来像に対応する形で、各々の取組を着実に積み重ねていくことが重要と考える。

(委員)

- ・市民に対してわかりやすく公共交通の将来像を伝えたいという意図はわかった。ただし、市民は公共交通に転換すべきと認識しながら、できていない状況もあるかと思う。利用者にとって、公共交通に転換したくなるような取組を予定しているか？

(事務局)

- ・具体的な取組のアイディアは、関係する各種計画の見直しのタイミングで反映していきたいと考えている。
- ・今回の改定で市民及び関係機関と共有したいのは公共交通優先区域の考え方。
- ・中心市街地に近くて公共交通が充実しているエリアについては、公共交通優先区域として設定し、今まで以上に公共交通を活用するような取組を進めていきたいと考えている。

(委員)

- ・9/14 バス無料の日の実績を踏まえて、公共交通を利用したくなるような魅力的な取組があると市民の動きも変わると思う。

(委員)

- ・乗務員不足の問題は深刻。新卒者の交通従事者が増えるような対策が必要と考える。

(委員)

- ・基本方針の①基幹公共交通軸の強化②バス路線網の再編③公共交通空白・不便地域の解消の3本柱を踏襲するという考えでいいと思うが、解消という言葉についてはハードルが高い印象を受ける。
- ・資料2 P 1の公共交通優先区域はどのようにランドデザインに描く予定か？

(事務局)

- ・公共交通優先区域の考え方については、見せ方も含めて工夫が必要と考えているが、ランドデザインの地図上に公共交通優先区域を明示するのは難しいと考えている。例えば、地図から引出し線でエリアをイメージできるような図を提示したり、ランドデザインの補完資料にて、ポンチ絵でイメージを提示するなどして市民及び関係機関と共有できるようにしていきたいと考えている。

(委員)

- ・公共交通優先区域の規制についてはどのように考えているか？

(事務局)

- ・一足飛びに規制まではできないと考えている。
- ・ランドデザインで公共交通優先区域の考え方を提示して共有し、少しずつ市民及び関係機関の理解を深めながら、自家用車から公共交通への転換を促していきたい。

(委員)

- ・東京や福岡周辺ではJRと私鉄の連携が進んでおり、鉄道相互乗入れ等による結節性の向上が図られている。熊本市は鉄軌道の結節性向上に係る取組が足りていないと感じており、更なる検討が必要と考える。

(委員)

- ・ランドデザイン改定の方向性に交通渋滞対策に関連する文言が入っていないことが気になる。

(事務局)

- ・公共交通と自動車交通のベストミックスを自動車側から見ると、交通渋滞が一番の課題と考えるが、公共交通側からは、将来にわたって公共交通ネットワークを確保し、自家用車から公共交通に転換する取組が重要と考えている。
- ・また、環境問題や健康問題の側面からも公共交通の重要性を訴えることが重要と考える。

(部会長)

- ・ランドデザイン改定の方向性は事務局提案のとおりとし、本日の議論を踏まえ改定案及び補完資料案を検討していくこととする。